

“ぼんやり”を生かす

■デフォルト・モード・ネットワーク
みなさんは「デフォルト・モード・ネットワーク」という言葉を聞いたことがありますでしょうか。デフォルト・モード・ネットワークとは、「ぼんやりした状態の脳が行っている神経活動」のことです。そのときの脳は決して休んでいるわけではなく、アイドリング状態にあり、むしろ脳の特定部分が活発に活動している状態にあります。最近の研究では、このぼんやりした状態に大きな意味があり、この神経回路は自己認識やひらめきなど、私たちの想像する力に大きく関わっていることがわかってきています。

■日常の中のデフォルト・モード・ネットワーク
ここで質問です。ふだん、多くのみなさんがナイスなアイデアをひらめくときってどんな場合でしょうか。この質問に対してほとんどの人が同じ場所をこたえます。それは「お風呂」です。お風呂に入っていると、あるいはソファに座って天井を見つめているときに多くの人がぼんやり、あるいはぼんやりとした状態になります。そして、そのときにいろいろなアイデアが浮かぶと感じているのです。

子どもも同じです。「うちの子いつもぼんやりしている」ということはありませんか。特に、ちびっ子ギャングと言われる年頃の子どもたちは、さっきまで静かに座っていたのに、急に動き出したり

しませんか。その場合のほとんどがいたずらだったりしませんか。大人たちからすれば、さっきまで静かにしていたのに、と思うかもしれませんが、彼らは決しておとなしくしていたわけではなく、いろいろなことを想像し、次に何をしようかと考えていただけです。

子どもたちのぼんやりとした時間は想像力をやしなう大切な時間です。もちろん、ずっとぼんやりとされては困りますが、ただ、「いつまでもぼんやりとしていないで、やることやりなさい」という前に、この子はいまいろんなことを思い描いていると思っただけであらう。そうすれば少しはイライラもおさまるかもしれません。難しいことではありませんが…。

■知識の集積化
知識や情報があつまる場所に人はあつまります。東京などの大都市が多くの人をひきつけるのは、そこに多数の知識や情報が集積しているからです。知識や情報があつまり、人があつまり、お金があつまるのです。

かつてインターネットが普及すれば世界はフラットになると言われました。同じ場所にあつまらなくとも、知識や情報は世界中のどこにいても手に入れることができるようになるのです。ですが、実際は知の集積化がさらにすすみ、むしろ東京への一極集中が加速化しました。考えてみれば、知識と知識のかけ合わせによっておこるイノベーションの観

点からすれば、知識や情報を手に入れただけでは何の役にも立たないわけで、都市への集中は当然のことと言えます。

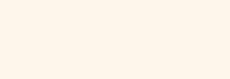
■地方の有為性
知識の集積化はアフターコロナになってますます進んでいくと思います。これを止めることはできません。だからと言って、地方が何もできないわけではない可能性があります。むしろ地方には地方ならではの「デフォルト・モード・ネットワーク」による可能性です。

ぼんやりとした時間を一緒に過ごしながら、いろいろな情報を交換することによってクリエイティブな発想が生まれるとするならば、豊かな自然を持つ地方はデフォルト・モード・ネットワークの状態を提供することのできる格好の場所だと思えます。

そしてもう一つ、アフターコロナにおいて、リモートワーク需要もますます高まってきていることを考えれば、クリエイティブな発想を生みやすい環境を提供できるのは、やはり新たなコミュニティを創出するための空間と自然をもっている地方だと私は思います。



にかほ市長
市川雄次



クロームブックを活用し情報収集する生徒たち

Vol. 2 総合的な探究の時間で地域活性！！ テーマは『水』

にかほ市の現状理解 (にかほ市の水循環)

今年度の総探のスタートとしてにかほ市総合政策課土田様よりにかほ市の水資源について講演をいただきました。



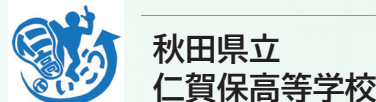
課題設定 (発見、共有)

(一社) ロンド代表理事金子様を講師に招き、『水』に着目した課題を発見、共有する活動をグループで行いました。



仁賀保高校では、「総合的な探究の時間（総探くそうたんく）」において、身近な地域社会と自己について課題を設定し、その課題を解決するための探究活動を行うことで、生きる力を培っています。この活動は、各教科・科目での学びから身に付けた資質・能力を生かし、さらに地域や他の教育機関等との連携をとおして進めています。

総探は、各学年で実施してはいますが、今年度の3年生は地域資源である『水』に着目。課題を設定しそれらの解決のための情報収集、整理、分析をとおして自分たちの解決策をまとめて行く予定です。地域からの協力を得ながら今後の活動を進め、仁賀保高校生ならではの発想で、さらに地域の活性化に結びつけていくことができるように努めていきたいと思えます。



当校では、ボランティア活動による地域貢献、情報発信力強化による地域の活力向上など、地域課題の解決に向け「自分たちのまちを、未来を、楽しく面白く」していくためのアイデアを形にしていこう取り組みを行っています。

